村上忠順翁顕彰会報

目　次

あいさつ
●神號略記……1ページ
●古典にみる神々……10ページ
●地域の神と祭神一覧表……10ページ
●歴史探訪記……15ページ
●表紙のことば……15ページ
●編集後記……15ページ

（写真提供　石川　敏さん）

村上忠順翁顕彰会報
第　8　号
編集　村上忠順翁顕彰会
事　務　局
発行　平成9年3月1日
村上忠順翁顕彰会

十周年を前にして

村上忠順翁顕彰会会長　石川隆之

日々に新緑の色を増す季節となりました。

村上忠順翁顕彰会は、今年も各事業が順調に進みおかげさまで、九周年を迎えることが出来ました。会員の皆様に心から感謝を申し上げます。

恒例となりました、歴史探訪も八回を数へ今年は「忠順の思想、心の足跡をたずねて」を企画し、松阪の「国学者本居宣長記念館」に伺い、宣長の生涯と国学についての講義を聞くことが出来ました。城下まち松阪の散策も気のむくまゝに歩くことができ楽しい思い出を残しての日帰り研修会でした。

忠順翁顕彰会は、平成元年一月に発足し九年目となりました。この間、豊田市のご支援、築瀬先生のご指導ご協力をいたゞきながら、歴史探訪「忠順の足跡をたずねて」を始め復刻本の配布・講演会・高岡コミュニティセンター竣工記念の忠順展・発足五周年記念シンポジュームの開催忠順研究家の著述の発刊・会報など顕彰事業を進めてきました。九年目を迎えた今日益々顕彰を深め十周年に向けて準備をする年でもあります。充実した内容が発表できる十周年記念展を望んでいます。会員の皆様にはこれまで以上のご協力を戴きますようお願い申し上げます。

本年度新らしく畝部地区に「宇都宮三郎顕彰会」が発足しました。宇都宮三郎は日本化学の祖といわれ、セメントを開発し耐火レンガやソーダーなど次ぎつぎと発明した化学者です。また献体や生命保険制度など医学にも貢献し近代国家の礎を築いた先覚者でした。ここにご紹介申し上げこの顕彰会が今後発展されますようお祈りします。

終りに会員相互の研鑽と親睦を深め地域の文化を育みよりよい顕彰会活動を行ってまいりたいと思います。併せて皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

夕日かげさすや垣ねに
あすさかむ
つぼみかぞふる
庭の朝がほ

忠順

村上忠順の神號略記（訓讀）

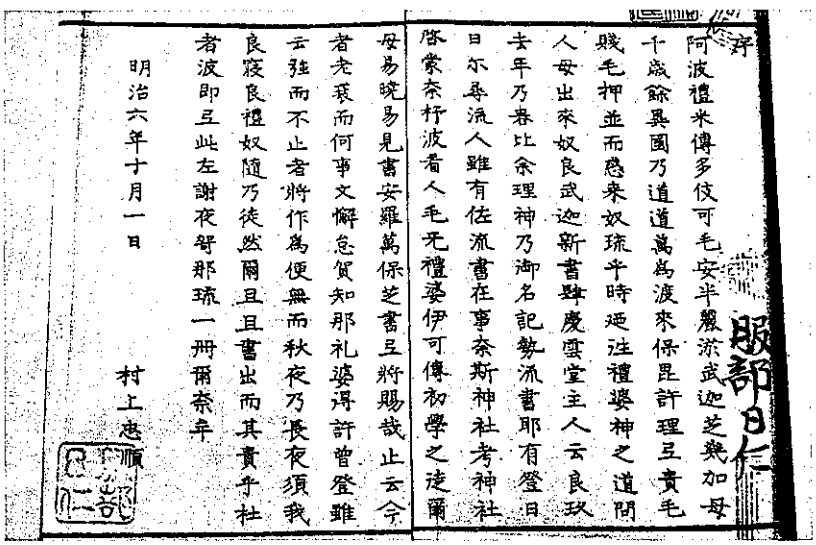
築瀬一雄

〔解題〕忠順が編輯して、名古屋の慶雲堂から明治七年三月に出版した『神號略記』のことは、広くは知られていない。序が一丁、本文が二十二丁（四十四ページ）の小型の小冊子（18.3×12.7cm）である。神號の名鑑と索引を兼ねたもので、古典読解の際の参考書として便利である。しかし、恐らく神職の祝詞の学習に役立たせる為の配慮からであろうが、全篇の表記が万葉仮名になっていて、これは今日では一般になじまないので、飜刻にあたって、漢字交りのかな文に改めた。題号の下に（訓読）の二字を加えたゆえんである。その上で、漢字も仮名づかいもなるべく旧様式のまゝにしておいた。

序

あはれめでたきかも。あはれおむかしきかも。千歳餘り異国の道道渡来し、ほびこりて、貴きも賤しきも押し並みて惑ひ来ぬるを、時のすぐれば、神の道問ふ人も出で来ぬらむかし。書肆慶雲堂主人の云へらく。去年の春ごろより、神の御名記せる書やあると、日日に尋る人あれども、さる書あることなし。神社考・神社啓蒙なとは看る人もなければ、いかで初学の徒にもさとり易く見易き書あらまほし。書きて賜らむやと云へり。今は老い衰へて、何事の文もおこたりがちなれば、えこそと云へど、強ひてやまざれば、なすすべ無くて、秋の夜の長き夜すがら、寝られぬまゝのつれづれに、かつがつ書き出でて、そのせめをふさぐものは、やがて此のささやかなる一冊になむ。

明治六年十月一日　　村上忠順


序
阿波禮米傳多伎可毛安半羅流武迎芝幾加母
十歳餘異國乃道道萬爲渡來保毘許理旦貴毛
賤毛押並而惑來奴琉平時廷注禮婆神之道問
人母出來奴良武迎新書肆慶雲堂主人云良玖
去年乃春比余理神乃御名記勢流書耶有登日
日尓尋流人雖有佐流書在事奈斯神社考神社
啓蒙奈杵波看人毛无禮婆伊可傳初學之徒爾
母易曉易見書安羅萬保芝書旦將賜哉止云今
者老衰而何事文懈怠賀知那礼婆得許曽登雖
云強而不止者將作爲便無而秋夜乃長夜須我
良寝良禮奴隨乃徒然爾旦旦書出而其貴乎社
者波即旦此左謝夜舛那琉一冊爾奈弁
明治六年十月一日　　村上忠順

神號略記

あ

天之御中主神（アメノミナカヌシノ）　ひとり神なりまして、御身を隠したまふ。

天之底立神（ソコタチノ）　また天之常立神と云ふ。また天壁立（ソラタチノ）命と云ふ。またの名は天角凝魂命。また天角巳利命と云ふ。また角魂命と云ふ。ひとり神なりまして、御身を隠したまふ。

天之狭土神（サツチノ）

天之狭霧神（サギリノ）

天之闇戸神（クラトノ）

此の三柱の神は、大山積神野椎神の山野に因りて、持ち別けて生みませる神なり。

天迦久神（アシカグノ）　迦具の祖神なり。

足名椎神（アナヅチノ）

鉋咋之大人神（アキグヒノウシノ）　櫛稲田比賣命の父神なり。また開囓ノ神と云ふ。伊邪那岐神の御禊に成れる神なり。

沫那藝神（アワナギノ）

沫那美神（アワナミノ）

天之水分神（ミクマリノ）

天之久比奢母智神

此の四柱の神は、速秋津比古神速秋津比賣神二柱河海に因りて持ち別けて生みませる神たちなり。

天忍人命（アマノオシヒトノ）　布留多麻命の子。掃部連たちの祖なり。

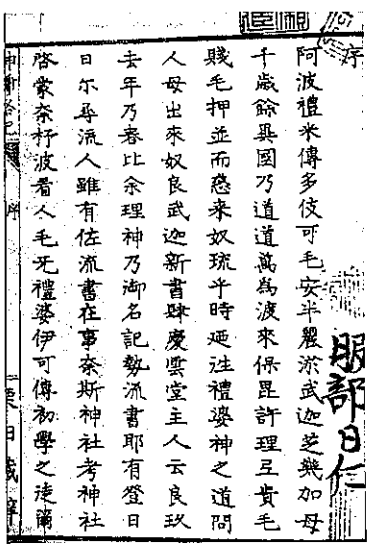
天照大日孁命（メノ）　またの名は天照大御神。また大日女貴と云ふ。また豊日孁命と云ふ。

青幡佐草日古命（アヲハタ）　月夜見命の子。

阿須波神　大年神の子。座摩の御巫子の持ちいつ

く神なり。
秋毘賣神　羽山戸神の子。
天之冬衣神　また天之葺根神と云ふ。八嶋士奴美神の子。
赤衾伊努大住日子佐分命　父神上に同じ。
天甕津日女命　赤衾伊努大住日子佐分命の后神なり。
天日方奇日方命　また櫛御方命と云ふ。またの名は阿田都久志尼命。大物主神の子。和仁公三輪君鴨君たちの祖なり。
天神玉命　産霊神の御子。
葺原醜男神　大国主神のまたの名なり。
味鉏高日子根神　またの名は一言主神。大国主神の子。
阿陀加夜努志多伎吉比賣命　高比賣命のまたの名なり。
天事代主神　積羽八重言代主神のまたの名なり。
天之御柱命　またの名は志那都比古神。
阿波咲命　天石帆別命の女。
天之八現津彦命　天事代主神の子。
天忍穂根命　また天大耳命と云ふ。またの名は正哉吾勝勝速日
天之忍穂耳命。
天之穂日命　また天之夫比命と云ふ。
天津日子根命
此二柱神は天照大御神須佐之男命と御誓の時成りませる神たちなり。
天麻比止都祢命　また天目一箇命と云ふ。またの名は天久斯麻比止都命。また天久之比命と云ふ。またの名は天御蔭命。また明立天御影命と云ふ。
またの名は天津麻羅命。またの名は天戸間見命。筑紫伊勢両國忌部倭鍛治たちの祖なり。
天弖鳥命　またの名は天鳥船命。
天照國照日子火明命　また天火明命と云ふ。またの名は櫛玉饒速日命。またの名は膽杵磯丹杵穂命。天忍穂根命の御子。
天香山命　またの名は伊斯許理度賣命。またの名は高倉下命。
またの名は手栗彦命。天火明命天道日女命にみ合ひて生める子なり。
天饒石價饒石天津日高彦火瓊瓊杵命　また天津彦火瓊々杵根命と云ふ。また天津彦根火瓊々杵命と云ふ。また天津彦國光彦火瓊々杵命と云ふ。また天之杵火々置瀬命と云ふ。また天杵瀬命と云ふ。天忍穂根命御子。御母天火明命に同じ。
天津日高日子火火出見命　またの名は火遠理命。
天津彦火瓊々杵根命の御子。御母は木花之開耶比賣命。
天津日高日子波瀲武鵜草葺不合命　火遠理命御子。御母は豊玉姫命。
天萬栲幡千幡比賣命　またの名は萬幡豊秋津比賣命。また萬幡比賣命と云ふ。またの名は火之戸幡比賣命。また栲幡千千比賣命と云ふ。またの名は天棚機比賣命。またの名は天八千々比賣命。産霊神の御女。伊勢人百たちの祖なり。
天忍日命　またの名は神狭日命。またの名は天槌津大来目命またの名は天津久米命。また大久目主命と云ふ。
天手力男命　またの名は天石戸別命。またの名は伊佐布魂命。またの名は明日名門命。またの名は阿居太郎命。またの名は天背男命。またの名は天石帆別命。またの名は天石門別安国玉坐神。
またの名は天嗣杵命。天底立命の子。
天日鷲命　またの名は天日鷲翔矢命。またの名は天加奈止美命。
天鈴杵命
此二柱の神は天手力男命の子。
天御雲命　天鈴杵命の子。
天村雲命　またの名は天二上命　またの名は後小橋命。天御雲命の子。伊勢朝臣額田部宿祢度會神主たちの祖なり。
天波與命　天村雲命の子。
天日別命　またの名は天日起命。天ノ波與命の子。
天津羽羽神　またの名は阿波咲命。また阿波波神と云ふ。また阿波神と云ふ。天手力男命の女。
天八重言代主命の后神なり。
天羽槌雄命　また天羽雷命と云ふ。また健葉槌命と云ふ。またの名は綺日安命。天日鷲命の子。
倭文連長幡部たちの祖なり。
天太玉命　またの名は天櫛玉命。またの名は天神玉命。また忌部神産霊神の御子と云ふ。
天比理刀咲命　天太玉命の后神なり。
天宇受賣命　また天於受女命と云ふ。またの名は大宮比賣命。また大宮能賣命と云ふ。またの名は宮比神。またの名は矢之波波伎神。天太玉命の女。
天櫛耳命　小山連白堤首日置部たちの祖なり。
天神立命　またの名は天忍立命。またの名は健角身命。またの名は八咫烏命。葛木直役直矢田部纒向神主たちの祖なり。

天富命　太玉命の孫。忌部ノ首穴師ノ神主たちの祖なり。
　此四柱の神は天太玉命の子。
天櫛明玉命　伊勢神服部連たちの祖なり。
天御桙命　伊勢神部連たちの祖なり。
天御食持命　またの名は手置帆負命。またの名は多久豆玉命。
天道根命　彦狭知命の子。
天津枳値可美高日子命　またの名は鷲枕志部沼値命。綾門日女命
天活玉命　また伊久魂命と云ふ。猪使連恩智神主たちの祖なり。
天三降命
　此七柱の神は産霊神の御子なり。
天相命　またの名は市千魂命。津速産霊神の子。
天兒屋根命　また天津兒屋根命と云ふ。また天兒屋命と云ふ。またの名は八意思兼神。また天思兼神と云ふ。また天八意命と云ふ。また常世思金神と云ふ。またの名は太詔戸命。またの名は櫛真智命。また太麻等能智命と云ふ。また太麻等能豆天神と云ふ。また櫛真命と云ふ。またの名は國之辞代主命。また中臣神と云ふ。興台産霊命天石門別安國玉主命の女許登能麻遅比賣命に御合ひて生めるなり。
天表春命　信濃国阿智祝の祖なり。
天下春命　秩父国造が祖なり。
天忍雲根命　また天押雲命と云ふ。
　此の三柱の神は天兒屋命の子なり。
天種子命　また天多祢伎命と云ふ。中臣連藤原朝臣大中臣朝臣津嶋直壹岐直四国ト部たちの祖なり。天忍雲根命の子。
天知迦流美豆比賣　御年神の妻。
天津国玉神　天若日子の父神なり。
天稚日子　天津国玉神の子。
天佐具女　天稚彦の侍婢なり。
天日腹大科度美神　布忍富鳥鳴海神の子。母若晝女神。
天之都度閇知泥神　深淵之水夜礼花神の妻なり。
天香香背男　また天津甕星と云ふ。
天之尾羽張神　また伊都之尾羽張神と云ふ。またの名は稜威之雄走神。
天之麻我都比神　また大禍津日神と云ふ。
天白羽命　また長白羽命と云ふ。またの名は天物知命。またの名は天八坂彦命。伊勢神麻績連たちの祖なり。
赤土命　また中筒之男命と云ふ。
吾屋惶根神　また訶志古泥神と云ふ。また吾屋橿城神と云ふ。また青橿城根神と云ふ。また吾忌橿城神と云ふ。淤母陀琉神と雙び生れませるなり。
吾我津比賣神　また伊賀津比賣命と云ふ。



い

活織神　角材之神と相ひ雙び生れませるなり。
伊邪那岐神　伊邪那美神と相ひ雙び生れませるなり。
伊邪那美神
　此の三柱は神世七代の神たちなり。
石長比賣命　大山積神の女。
　伊都之尾羽張神　また天之尾羽張神と云ふ。
　またの名は稜威之雄走神。伊邪那岐命の御刀の御霊の神なり。
磐裂神　五百箇磐村に依りて成りませる神なり。
磐筒之男神
磐筒之女神
　右二柱の神は磐裂神根裂神の子なり。
氣吹戸主神　また大直毘神と云ふ。天照大御神の和御魂の神なり
伊豆能賣神　またの名は速秋津比賣神。水戸神なり。
五十猛神　またの名は大屋毘古神。また伊太祁曽神と云ふ。またの名は韓神。またの名は曽富理神。月夜見命の御子。
磐坂日子命　御父上に同じ。
稲依比女命　大年神の女。
伊賀津比賣命　大土神の女。またの名は吾我津比賣命。
活玉依毘賣命　またの名は溝咋比賣命。三島之溝咋耳命の女。
活津日子根命　天照大御神須佐之男命と御誓の時成りませる神なり。
稲背脛命　また武夷鳥命と云ふ。

膽杵磯丹杵穂命　また天火明命と云ふ。
伊斯許理度賣命　また天香山命と云ふ。
五瀬命　また彦五瀬命と云ふ。鵜草葺不合命の御子。
稲氷命　また彦稲氷命と云ふ。御父上に同じ。
伊佐布魂命　またの名は天手力男神。
伊久魂命　また天活玉命と云ふ。
市千魂命　またの名は天相命。
斎火武主比神　またの名は火産霊神。
伊波比主神　またの名は経津主神
磐土命　また上筒之男命と云ふ。また石土毘古神と云ふ。
石杵嶋比賣命　またの名は狭依毘賣命
石巣比賣神　伊邪那岐命水底にて滌ぎし時生れし神なり。

う

宇麻志葺牙比古遅神　独神成りまして御身を隠せり。
浮経野豊賣神　また豊斟渟神と云ふ。
宇比地迩神　また渥土根神と云ふ。妹須比智迩神と相ひ雙び生れませるなり。
宇気母智神　またの名は宇迦之御魂神。
上津和多都美神
上筒之男之命　また磐土命と云ふ。また石土毘古神と云ふ。
此の二柱の神は伊邪那岐命水底にて滌ぎし時生れし神たちなり。
宇津志日金拆命　またの名は穂高見命。安曇連凡海連海犬養安曇犬養たちの祖なり。
宇都志國玉神　またの名は大國主神。
宇麻志麻遅命　また可美真手命と云ふ。また味間見命と云ふ。
天火明命御炊屋比賣に御合ひて生める神なり。
宇豆毘古命　またの名は槍根津比古命。
宇武岐比賣命　また宇武賀比比賣命と云ふ。
菟狭津彦命　天三降命の子。豊國宇佐國造の祖なり。
菟狭津媛命　父神は上に同じ。中臣連祖。天種子命の妻なり。

お

大斗能地神　また大富道神と云ふ。
大斗乃辨神　また大富辺神と云ふ。
此の二柱は相ひ雙びて生まれませるなり。
淤母陀琉神　妹阿夜訶志古泥神と相ひ雙びて生まれませるなり。
此の三柱は神世七代の神たちなり。
大宜都比賣神　また大御食都神と云ふ。また大宇迦神と云ふ。
また豊宇気毘賣神と云ふ。御食物神なり。稚産霊神の御子。
大雷神　大産霊神の子。
大山積神　また大山祇御祖命と云ふ。またの名は大水上神。また大水上御祖命と云ふ。また大水神と云ふ。またの名は山雷神。父神は上に同じ。
大戸惑子神
大戸惑女神
此の二柱の神は大山積神野椎神山野に因りて持ち別けて生みませる神なり。
大事忍男神　またの名は豫母都事解之男神。
奥疎神
奥津那藝佐毘古神
奥津甲斐辨羅神
此の三柱の神は伊邪那岐命左の御手纒に成れる神たちなり。
大禍津日神　また八十柱津日神と云ふ。また天之麻我都比神と云ふ。またの名は大綾津日神。またの名は大屋毘古神。またの名は瀬織津咩神。
伊邪那岐命穢を悪み給ふ御霊に因りて成りませるなり。天照大御神の荒御魂の神なり。
大直毘神　また神直毘神と云ふ。またの名は大戸日別神。またの名は気吹戸主神。またの名は天之吹男神。またの名は風木津別忍男神。伊邪那岐命禍を直さむと欲る御霊に因りて成りませるなり。天照大御神の和御魂の神なり。
大和多都美神　またの名は豊玉毘古命。
大日霎貴　またの名は天照大御神。また豊日霎命と云ふ。
大屋毘古神　またの名は五十猛神。
大屋津比賣命　またの名は大屋毘賣神。木國の大神なり。
淤美豆奴神　またの名は八島士奴美神
大年神　また大歳御祖命と云ふ。御母神大市比賣命。
此の四柱の神は月夜見命の御子なり。
奥津日子神
奥津比賣神　またの名は大戸比賣神。
此の二柱の神は大年神の子にて、竈神なり。二神を總ねて庭津日神と称ふ。また庭高津日神と云ふ。
大山咋神　またの名は山末之大主神。大年神の子。葛野の松尾と近淡海國の日枝山にませる神なり。

大土神　また大土之御祖神と云ふ。またの名は佐太大神。またの名は猨田毘古神。度會之地主神なり。父神上に同じ。御母は枳佐貝比賣命。

大國主神　またの名は大名牟遅神。また國造大巳貴神。またの名は葺原魂男神。またの名は八千矛神　またの名は宇都志國玉神。またの名は大地主神。またの名は大名持神。天之冬衣神の子。御母刺國比賣命。

大國御魂神　また大國玉神と云ふ。大和の神社にます。大國主神の荒御魂の神なり。

大物主櫛甕玉命　また大物主神と云ふ。大三輪の神社にます。大國主神の和御魂の神なり。

大倉比賣命　またの名下照比賣命。

大背飯三熊大人　またの名武夷鳥命。

大久米命　またの名は道臣命。

大宮比賣命　また大宮能賣命と云ふ。またの名は天宇受賣命。

大麻等能豆天神　またの名は天兒屋命。

淤滕山津見神　迦具土神の胸に成れる神なり。

瀛津嶋比賣命　またの名多紀理毘賣命。

か

神皇産霊神　また神皇産霊御祖命と云ふ。また神魂大刀自神と云ふ。いはゆる神魯美命これなり。独り神成りまして、御身を隠せり。

訶志古泥神　また吾屋惶根神と云ふ。また吾屋橿城神と云ふ。また青橿根神と云ふ。また吾忌橿城神と云ふ。淤母陀琉神と相ひ雙びて生れませるなり。

金山毘古神

金山毗賣神

此の二柱の神は伊邪那岐命の御子にて、金神なり。

鴨若雷命　また別雷命と云ふ。火雷神の御霊玉依毗賣命に御合ひて生みませる神なり。いはゆる加茂大神これなり。

草野比賣神　また草祖神と云ふ。またの名は野槌神。豊宇気毘賣神の幸魂なり。

神大市比賣命　大山積神の女。

神吾田津比賣命　またの名は鹿葺津比賣命。またの名は木花之佐久夜毘賣命。迩々藝命の后神なり。

神直毘神　またの名は風木津別忍男神。また大直毘神と云ふ。

勝速日命　また月夜見命と云ふ。

韓神　またの名は五十猛神。

神屋楯比賣命　またの名は多岐都比賣神。此の二柱の神は月弓命の御子。

香山戸神　大年神の子。

賀夜奈流美命　大國主神の子。

神知津比古命　またの名は櫛根津比古命。

神倭磐余毘古命　また神倭磐余彦火火出見命と云ふ。またの名は若御毛沼命。またの名は狭野命。後の御諡は神武天皇と称ふ。鵜草葺不合命の御子。

神狭日命　またの名は天忍日命。

綺日安命　また天羽槌雄命と云ふ。

神速魂神　また津速産霊神と云ふ。

神速須佐之男命　またの名は健速須佐之男命。

き

木俣神　またの名は御井神。大國主神稲羽之八上比賣に御合ひて、生めるところの子なり。

伎佐貝比賣命　産霊神の御女。佐太神の御母なり。

く

國之底立神　また國之常立神と云ふ。独り神成りまして、御身を隠せり。

國之御柱命　またの名は志那都比賣神。

久久能智神　また木祖神と云ふ。木神なり。豊宇気毘賣神の幸魂なり。

國之狭土神

國之狭霧神

國之闇戸神

此の三柱の神は大山積神野椎神山野に因りて、持ち別きて生みませる神なり。

櫛稲田比賣神　またの名は奇稲田美等与麻奴良比賣命。また真髪觸奇名田比賣命と云ふ。また稲田比賣命と云ふ。速須佐之男命の后神なり。足名椎神の女。御母は手名椎神。

久那斗神　また来名戸之視神と云ふ。また衝立船戸神と云ふ。

また岐神と云ふ。伊邪那岐命の御杖に成りませる神なり。

國之水分神

國之久比奢母智神

此の二柱の神は速秋津比古神速秋津比賣神二柱河海に因りて、持ち別きて生みませる神たちなり。

櫛八玉神　水戸神の孫なり。

櫛御気野命　また熊野加武呂神と云ふ。また月夜見命と云ふ。

國忍別命　月夜見命の御子。
久久年神
久久紀若室葛根命
　此の二柱の神は羽山戸神の子なり。
櫛御方命　またの名は天日方奇日方命。
熊野久須毘命　また熊野忍蹈命と云ふ。また熊野忍隅命と云ふ。
　また熊野大隅命と云ふ。天照大御神須佐之男命と御誓ひの時、成りませる神なり。
櫛玉饒速日命　また天照國照日子火明命と云ふ。
　また天火明命と云ふ。天忍穂根命玉依毘賣命に御合ひて生めるところの神なり。
櫛真智神　また天兒屋命と云ふ。またの名は櫛真命。またの名は國辞代主命。
闇山津見神　迦具土神の陰に成れる神なり。
闇淤加美神
闇御津羽神
　此の二柱は伊邪那岐神の御刀の手上に集へる血の手俣より漏り出でて成れる神なり。
櫛石窓神　またの名は天手力男命。
熊野加武呂命　また熊野加夫呂岐櫛御気野命と云ふ。また建速須佐之男命と云ふ。
久斯神　またの名は少毘古那神。

こ

木花之佐久夜毘賣命　またの名は櫻大刀自神。またの名は神吾田津比賣命。また豊吾田津比賣命と云ふ。またの名は鹿葦津比賣命。大山積神の女。迩々藝命の后神なり。
苔虫神　木花之佐久夜毘賣命の子。
興台産霊命　また己己登魂命と云ふ。またの名は天辞代主命天相命の子。
許登能麻遲比賣命　天手力男命の女。興台産霊命の后神なり。
薦枕志都沼値命　またの名は天津枳値可美高日子命産霊神の御子。
薦枕高皇産霊神　またの名は高木神。

さ

櫻大刀自神　またの名は木花之佐久夜毘賣命。
狭依毘賣命　またの名は市杵嶋比賣命。またの名は中津島比賣命。月夜見命の御子。身形之中津宮にます神なり。
媛田毘古神　またの名は佐太大神。またの名は大土神。また大土之御祖神と云ふ。大年神の子。御母は枳佐貝姫命。度會の地主神なり。
佐佐津比古命　父神上に同じ。度會縣にます神なり。
刺國若比賣命　刺國大神の女。
櫛根津比古命　またの名は宇豆毘古命。またの名は神知津比古命。また椎根津彦命と云ふ。
　武位起命の子。
狭野命　また神倭磐余毘古命と云ふ。

し

志那都比古神　またの名は天之御柱命。また龍田比古神と云ふ。
志那都比賣神　またの名は國之御柱命。また志那斗辨神と云ふ。また龍田比咩神と云ふ。
　此の二柱は風神なり。伊邪那岐命の吹き生みますところなり。
下照比賣命　またの名高比賣命。またの名は稚國玉神。またの名は大倉比賣命。大國主神の女。天稚日子の妻神なり。
椎根津彦命　またの名は櫛根津比古命。
後小橋命　またの名は天村雲命。またの名は天二上命。
志藝山津見神　迦具土神の左の手に成れる神なり。
鹽椎神　またの名は事勝國勝長狭神。また塩土老翁と云ふ。

す

須比智邇神　また沙土根ノ神と云ふ。宇比地迩神と相ひ雙びて生まれませるなり
清之瀧名坂軽彦八嶋手神　またの名は八島土奴美神。また清之湯山主三名狭漏彦八島篠神と云ふ。また清之湯山主三名狭漏彦八島野神と云ふ。
　またの名は八束水臣豆努神。また淤美豆奴神と云ふ。須佐之男命稲田比賣神に御合ひて生むところの神なり。
須勢理毘賣命　また若須勢理毘賣命と云ふ。須佐之男命の御女。大國主神の御嫡妻なり。
少毘古那神　またの名は小名牟遲神。また少日子神と云ふ。また少御神と云ふ。また手間天神と云ふ。また久斯神と云ふ。産霊神の長子なり。
陶津耳命　またの名は天神立命。

せ

瀬織津比賣神　またの名は大禍津日神。
勢夜多多良比賣命　またの名は玉櫛比賣命。天神立命の女。三輪大物主神と御合ひませり。

そ

底津和多都美神
底筒之男命　また底土命と云ふ。
　此の二柱の神は伊邪那岐命水底に潽ぎし時成りませる神たちなり。

曽富理神　またの名は五十猛神。

た

高皇産霊神　またの名は高木神。また薦枕高産霊神と云ふ。いはゆる神曽岐命これなり。獨り神成りまして、御身を隠せり。

龍田比古神

龍田比咩神

此の二柱は風神なり。

健埴安神　またの名は埴山毘賣神。御母は伊邪那美命。

高靇神　大神の骸に成りませる神なり。

高木上神　また高水神と云ふ。大山積神の子。

健御雷之男神　また武甕槌神と云ふ。またの名は健雷神。またの名は健布都神。またの名は豊布都神。また豊香嶋天大神と云ふ。熯速日神の子。

玉依毘賣命　豊玉毘古命の女。鵜草葺不合命の后神なり。

多紀理毘賣命　また田心毘賣命と云ふ。またの名は瀛津島比賣命。身形之奥津宮神なり。

多岐都比賣命　また高津比賣命と云ふ。またの名は神屋楯比賣命。またの名は邊津島比賣命。身形之邊津宮神なり。

高比賣命　またの名は下照姫命。またの名は稚國玉神。またの名は阿陀加夜努志多伎伎姫命。またの名は大倉姫命。天稚彦の妻神なり。

高照比賣命　大國主神多岐都比賣命に御合ひて、生むところの神なり。

健御名方神　またの名は御穂須々美命。また南方冨神と云ふ。

后神を八坂刀賣命と謂ふ。

多伎都比古命　味鉏高彦根神天御梶日女命に御合ひて、生むところの神なり。

武夷鳥命　また天夷鳥命と云ふ。また武日照命と云ふ。また建比良鳥命と云ふ。またの名は武三熊命と云ふ。また武三熊之大人と云ふ。またの名は大背飯三熊大人。またの名は稲背脛命。またの名は天鳥船命。天之穂日命の子。

高倉下命　またの名は手栗彦命。またの名は天香山命。天火明命の子。

武位起命　火火出見命の御子。

栲幡千千比賣命　またの名は天万栲幡千幡比賣命。

玉主命　またの名は天手力男命。

健葉槌命　またの名は天羽槌雄命。

武乳速命　津速産霊神の子。添縣主の祖なり。

健角身命　またの名は健茅渟祇命。またの名は陶津耳命。またの名は天神立命。またの名は八咫烏命。天神玉命の子。

玉櫛比賣命　またの名は勢夜多多良比賣命。

玉依毘古命　また健玉依毘古命と云ふ。

玉依毘賣命

此の二人の命は天神立命丹波國伊賀古夜比賣に御合ひて、生むところなり。

玉祖命　またの名は天櫛明玉命。

手置帆負命　またの名は多久豆玉命。またの名は天御食持命。

産霊神の御子。

ち

千依比賣命　大年神の女。

つ

角魂命　また矢之底立神と云ふ。また天壁立命と云ふ。また天角巳利命と云ふ。また角凝魂命と云ふ。産霊神の御子。

角櫛神　妹活代神と相ひ雙び生れませるなり。

衝立船戸神　またの名は久那斗神。

頬那藝神

頬那美神

此の二柱の神は速秋津比古神速秋津比賣神二柱河海に因りて持ち別けて生みませるところの神たちなる。

撞賢木厳之御魂天疎向津比賣命　またの御名は天照大日孁命。

またの名は天照大御神。また天照皇大御神と云ふ。

月夜見命　また月弓命と云ふ。またの御名は健速須佐之男命。また神速須佐之男命と云ふ。また櫛御気野命と云ふ。また熊野加武呂命と云ふ。また勝速日命と云ふ。また八束髪速佐須良命と云ふ。

此の二柱の大神は伊邪那岐命御目を洗ふ時生まれませるところの神たちなり。

柧津比賣命　月弓命之御子。木國の大神なり。

都留岐日子命　月弓命の御子。

劔根命　天神立命の子。葛城國造の祖なり。

衡杵等乎留比古命　月弓命の御子。

積羽八重言代主神　また天事代主神と云ふ。また都波八重事代主神と云ふ。大國主神の子。飛鳥直長柄首たちの祖なり。

津速産霊神　また神速魂命と云ふ。火産霊神の御霊神なり。

て

手名椎神　大山積神の子。足名椎神の妻。

手間天神　またの名は少彦名神。

と

豊斟渟神　また豊雲野神と云ふ。また豊組野神と云ふ。また豊齧野神と云ふ。また豊國主神と云ふ。また豊國野神と云ふ。また葉木國野神と云ふ。また浮經野豊買神と云ふ。また豊香節野神と云ふ。独り神成りまして、御身を隠せり。

豊宇氣毘賣神　また豊遠迦比賣神と云ふ。また登由宇氣神と云ふ。またの名は宇氣母智神。またの名は大宜津比賣神。また大御食都神と云ふ。またの名は宇迦之御魂神。またの名は若宇迦能賣神。また大宇迦神と云ふ。また豊宇賀能賣神と云ふ。

御食物の神なり。稚産霊神の御子。

豊吾田津比賣命　またの名は木花之佐久夜毘賣命。

豊香嶋天大神　またの名は豊布都神。またの名は健御雷之男神

豊玉毘古命　またの名は大和多都美神。

豊玉毘賣命　豊玉毘古命の女。日子火火出見命の后神なり。

豊日霎命　またの名は天照大御神。

豊御毛沼命　またの御名は神倭磐余毘古命と云ふ。

豊石窓神　またの名は天手力男命。

豊布都神　またの名は健御雷之男神。

な

泣澤女神　伊邪那岐命の御涙に成りませる神なり。

長道磐神　また道之長乳歯神と云ふ。伊邪那岐命の御帯に成るところの神なり。

中津和多都美神

中筒之男命　また赤土命と云ふ。

此の二柱の神は中瀬に滌ぎし時生まるゝところの神たちなり。

中津嶋比賣命　またの名は狭依毘賣命。

長白羽命　また天白羽命と云ふ。またの名は天物知命。またの名は天八坂彦命。天日鷲命の子。

伊勢神麻續連たちの祖なり。

夏之賣神　またの名は夏高津日神。羽山戸神の子。

に

丹生都比賣神　また尓保都比賣神と云ふ。またの名は新具蘇比賣神。また埴山毘賣神と云ふ。

庭津日神　また庭高津日神と云ふ。竈神なり。奥津彦神奥津姫神二神を總ねて、これを称ふ。

ぬ

野椎神　またの名は草野比賣神。

沼名河比賣神　また奴奈宜波比賣命と云ふ。俾都久辰為命の子。

ね

根裂神　五百箇磐村に依りて成りませる神なり。

は

葉木國野神　またの名は豊斟渟神。

埴山毘賣神　また埴安姫神と云ふ。また健埴安神と云ふ。またの名は丹生都比賣神。また尓保都比賣神と云ふ。またの名は新具蘇比賣神。土神なり。

速玉之男神　伊邪那岐命の御唾に成りませる神なり。

波比岐神　大年神の子。座摩の御巫の持ちいつく神なり。

羽山戸神　大年神の子。

羽山津見神

速秋津比古神

速秋津比賣神

此の二柱は水戸神なり。二神を總ねて速秋津日神と云ふ。また伊豆能賣神と云ふ。

速佐須良比賣神　穢を持ち失ふ神なり。伊邪那岐命御鼻を洗ひ給ふ時に生れませり。

此の三柱の神はいはゆる祓戸の神たちなり。

原山津見神

ひ

火之迦具土神　またの名は火之焼速男神　またの名は火之炫毘古神　また火産霊神と云ふ。火神なり。

燭速日神　甕速日神の子。

比賣多多良伊須氣余理比賣命　本の名は富登多多良伊須々岐比賣命。また姫蹈鞴五十鈴姫命と云ふ。大物主神の女。神倭磐余毘古命の大后なり。

一言主神　またの名は味鉏高日子根神。

彦五瀬命　また五瀬命と云ふ。

彦稲氷命　また稲氷命と云ふ。

此の二柱は鵜草葺不合命の御子なり。

彦狭知命　天御食持命の子。

火之戸幡比賣命　またの名は天万栲幡千幡比賣命。

比古佐目布都神　またの名は經津主神。

日臣命　道臣命の元の名なり。

ふ

經津主神　またの名は彌加布都神。また比古佐士布都神と云ふ。

またの名は伊波比主神。矢作連祖なり。磐筒之男神の子。

岐神　また久那斗神と云ふ。
布留多麻命　大和多都美神の子。八太造の祖なり。
太詔戸神　またの名は太麻等能智命。またの名は天兒屋命。

へ

邊疎神
邊津那藝佐毘古神
邊津甲斐辨羅神
　此の三柱の神は伊邪那岐命の御手經に成るところの神たちなり。
邊津嶋比賣神　またの名は多岐都比賣命。月弓命の御子。身形之邊津宮にませる神なり。

ほ

冨登多多良伊須須岐比賣命　姫蹈鞴五十鈴姫命の本名なり。
火産靈神　またの名は火之迦具土神。またの名は火之燒速男神。またの名は火之炫毘古神。またの名は火雷神。また齋火武主比神と云ふ。火神なり。此の神の天上にませる御靈の名を津速産靈神と謂ふ。
穂高見命　またの名は宇都志日金拆命。
火須勢理命　また火進命と云ふ。また火須曽理命と云ふ。またの名は火照命。またの名は火須佐利命。瓊々杵命の御子。
火遠理命　またの御名は天津日高日子火火出見命。また火夜織命と云ふ。命の御父は上に同じ。

ま

真髪觸奇名田比賣命　またの名は稲田比賣命。
正哉吾勝勝速日天之忍穂耳命　また天忍穂根命と云ふ。また天大耳命と云ふ。また天忍穂別命と云ふ。天照大御神の御子。
真玉着玉之邑日女命　産靈神の御女。大國主神御合ませるなり。

み

彌都波能賣神　水神なり。伊邪那美命の生みませるところなり。
彌加布都神　またの名は經津主神。
甕速日神　伊邪那岐命の御刀の御靈に依りて成りませる神なり。
道之長乳歯神　またの名は長道磐神。伊邪那岐命の御帯に成るところの神なり。
御年神　大年神の子。
弥豆麻岐神　羽山戸神の子。
御井神　またの名は木俣神。大國主神の子。
御穂須々美命　またの名は健御名方神。
　また健南方冨神と云ふ。大國主神沼名河比賣命に御合ひて生むところの神なり。
溝咋比賣命　またの名は活玉依毘賣命溝咋耳命の女。
御毛入野命　また御毛野命と云ふ。鵜草葺不合命の御子。
宮比神　また天宇受賣命と云ふ。
三嶋溝咋耳命　天太玉命の子。三島縣主の祖なり。
三穂津比賣命　産靈神の御子。三輪大物主神の后神なり。
御倉板擧之神
見野神　また豊斟野神と云ふ。
道臣命　元の名は日臣命。またの名は大久米命。

も

物忌奈命　積羽八重言代主神の子。

や

八意思兼神　またの名は天兒屋根命。また八意命と云ふ。
山雷神　またの名は大山積神。
八衢比古神
八衢比賣神
　二柱を合せて道反大神と称ふ。また塞巫豫美戸大神と称ふ。いはゆる障神りの。
八十枉津日神　また大禍津日神と云ふ。
八束髪速佐須良命　また月弓命と云ふ。
八嶋士奴美神　またの名は清之繋名坂輕彦八島手神。また清之湯山主三名狭漏彦八嶋野神と云ふ。
　またの名は八束水臣豆努神。また淤美豆奴神と云ふ。須佐之男命稲田姫命に御合ひて生むところの神なり。
八野若比賣命　須佐之男命の御子。
山末之大主神　またの名は大山咋神。
山代日子命　大國主神の子。
八重事代主神　またの名は積羽八重言代主神。
鹽冶毘古命　味鉏高彦根神の子。
焼太刀大守大穂日子命　塩屋毘古命の子。
安牟須比命　産靈神の御子。
矢之波波伎神　また天宇受賣命と云ふ。
八尋桙長依日子命　産靈神の御子。
倭建命　またの名は小碓命。またの名は倭男具那。景行天皇の御子。

よ

萬幡豊秋津比賣命　また万幡比賣命と云ふ。
　またの名は天万栲幡千幡比賣命。
豫母都事解之男神　またの名は大事忍男神。

伊邪那岐命坐を掃きし時に成りませる神なり。

わ

若御毛沼命　また神倭磐余毘古命と云ふ。

若布都主命　大國主神の子。

稚産霊神　また若御魂神と云ふ。

若宇迦能賣神　また豊宇気毘賣神と云ふ。

別雷神　また鴨若雷命と云ふ。

煩之大人神　また煩神と云ふ。伊邪那岐命の御衣に成るところの神なり。

若須勢理毘賣命　またの名は須勢理毘賣命。

若山咋神

若年神

若沙那賣神

　此の三柱の神は羽山戸神の子なり。

稚国玉神　またの名は下照姫命。

神號略記終。

古典にみる神々

《にほんのしんわ》

　日本の国は歴史の中で「神州」とよんでいた時代があった。日本の神道は渡来宗教ではなく日本固有の宗教であり神道は古来日本人の心の中に生き続け常に生活に結びつき尊ばれた。「古事記」や「日本書記」の古典にみる神話も日本人の心に深くかかわってきた。信仰の自由な現代において神にこだわることなく歴史として神を知り参拝のおりそこに祀られている神や神徳を知っておくことは無意味なことではなかろう。そこでいま改めて「神話」の世界へ踏み入ってみたいと思う。

　日本の神話の中で最初に出てくる神は天之御中主神といい高天原の中心の神である。つぎに高御産巣日神、神産巣日神を加えた三神を、日本神話の元神、「造化三神」という。ついで宇麻志阿斯訶備比古遲神と天之常立神は、天地すべてを掌握し初めて生命の根源を設け高天原にあって地球や宇宙全体を守る神とされている。前記の造化三神に後の二神を加えこの五神を「別天神」といい天地創造時代という。

　つづいて、ようやく国が形成しつつあるとき生れた神が国之常立神である。この後つづいて神々が出現し伊弉諾尊・伊弉冉尊にいたる。伊弉諾・伊弉冉尊は神話のなかで最初の夫婦神で数々の国土を生み、その国土を担当する多くの神々いわゆる八百萬の神を生んだ。国之常立神から伊弉諾・伊弉冉にいたる七世を「天神七世」又は「神代七世」という。神世七代から天業を継承した神は、伊弉諾尊が、日向国の橘之小門の流れに身を清めたときに生れた天照大神である。つづいて天之忍穂耳命、瓊瓊杵尊、日子穂穂手見命、鵜葺草葺不合命までの五人を「地祇五代」といい天位継承時代という。

　これから後は、鵜葺草葺不合命の子である第一代神武天皇へと継承されこれ以降を「人代」といい現在にまで続いている。

　ここまでが縦に結んだ系図の概略であるが、これに綾なす横糸の如き神々がいる。中でも高天原一番の智恵者といわれた八意思兼神や出雲建国に活躍した小彦名神、天の岩戸で有名となった天手力男命・天宇受売命、天孫降臨に献身的につくした猿田彦命、高天原の荒ぶる神の代表ともいえる素戔嗚尊。その素戔嗚尊が八岐の大蛇を退治し良民を救済した。大国主命の国譲りなどを織まぜて現代に伝承されてきた。これが日本神話の概略である。

（出典、日本文芸社「日本の神様を知る事典」より。）

地域の神と祭神一覧表

〈今回の「村上忠順顕彰会報」第８号に掲載した「神號略記」村上忠順編集を参考にご考察下さい。〉

町　名	神社名	祭　神	由　緒
高岡町	神明宮	大日孁貴命	大日孁（日霊、日女）は、日の女神の意味で天照大神を称える語。 「大日孁貴命」は天照大神の別名。皇室の祖先（皇祖神）天照大神は、伊弉諾尊が「黄泉国」（死後、魂が行くというところ（くに）から逃げ帰り、筑紫の日向の橘之小門の阿波岐原でけがれを洗い清めたとき光とともに美しい女神が生れた、この子を天照大神と名づけたといわれる。 ※皇大神宮（内宮）、豊受大神宮（外宮）を併せて伊勢神宮という。皇大神宮には天照大神、豊受大神宮には豊宇気毘売神を祀り、伊勢神宮の分祀社を神明社という。豊宇気毘売神は、天照大神の食事を受持つ神である。宇気は食物の意味。 国土安泰、福徳、開運、勝運などのご神徳あり。

		速玉男命	速玉之男命とも書く。日本書記によれば伊弉諾尊が伊弉冉尊を慕い給うて黄泉国に至り給ひその醜を厭うて女神に対して族から離れよといって唾く時に化生した神であると記している。この命は、熊野三山（本宮、新宮、那智）のうち新宮（熊野速玉神社）の主祭神として祀られている。又、熊野三所權現（結宮、速玉宮、證誠殿）のうち速玉宮の主祭神でもある。 尚、熊野十二社權現の第二殿は速玉之男神である。
		事解男命	事解之男神、泉津事解之男神ともいう。この神は伊弉諾尊が伊弉冉尊を追って黄泉国に至り、帰るに臨み、夫婦の道を断絶せん云々と仰せられて身を掃ひ給うた時に生れた神。 紀伊国、熊野三山各十二所の祭神の中にこの神を祭る。 青森県弘前市「熊野奥照神社」や長野県北佐久郡「熊野皇大神社」に伊弉諾、伊弉冉、速玉男命と共にこの事解男命が合祀されている。
		軻遇突智命	火之迦具土神と書く。別名、火之夜芸速男神。火之炫毘古神というこの神は伊弉諾尊、伊弉冉尊の夫婦の間で最後に生れた神で火之迦具土神という。火の神である。母伊弉冉尊はこの神を生んだため火傷をしそれがもとで死んでしまう。 夜芸は焼、炫・迦具は光り輝くの意味。 製鉄、農器具、刀物、陶磁器の守護神、鎮火、防火の神。 主な神社は静岡県周智郡「秋葉神社」京都市「愛宕神社」
	山神社	大山祇命	大山津見神とも書く。別名、和多志大神という。 大山津見とは、大山に住むの意味で大山をつかさどる神というのが命名の由来といわれる。山神は、春になると山を下って田の神となり田を守り、収穫がすむと再び山に戻る。 大山津見神は木花開耶媛命の父である。酒造の祖神。
	稲荷社	蒼稲魂命	宇迦之御魂神と書く。倉稲魂命ともいう。この神は、素戔嗚尊と神大市比売命との間の子、兄は大年神である。 死して五穀の種を生じた神で特に稲の精霊とされている。 稲荷は稲生りの転化したものという。全国にある神社の三分の一は稲荷神社といわれるほどである。京都の伏見稲荷・佐賀の祐徳稲荷・茨城の笠間稲荷を日本三代稲荷と呼ぶ。 商売繁盛・家内安全・災難除け・子孫繁栄・学芸芸能成就。
	御霊社	英霊	戦没者の霊魂を祀る。
前林町	神明社	大日孁貴命	前記参照
		応神天皇	別名、品陀和気命・誉田別尊・大鞆和気命という。八幡大菩薩は応神天皇の称である。 応神天皇は、仲哀天皇と神功皇后の間に生れた第二子である。このころ大陸は呉国の時代で産業・文化にすぐれていた応神天皇は、この国の織物・鉄工などの技法を導入し日本に新たな文学、産業などの文化を招来させた。ご神徳は家内安全、交通安全、厄除、開運、開拓、航海、漁業の守護、安産、受験祈願など。
		軻遇突智命	前記参照
	山神社	大山祇命	〃
	稲荷社	蒼稲魂命	〃

	御霊神社	英　霊	前記参照
	上平地神社	軻具突智命	前記「軻遇突智命」と同じ
		経津主命	別名、建御雷之男神。武甕槌神とも書き古事記では経津主神と同神と書かれている。命名の由来は、経津は剣の切る勢いを示し、御雷は神鳴りであり勇武をあらわしている。 この神は、悪神のはびこる豊葦原中国を統治するため天照大神の命を受け中国へ行き大国主命に国を譲るようかけあい難航をきわめたが国譲を成功させた神である。このときの約束で造ったのが有名な「出雲大社」であるといわれる。ご神徳は外交の祖神、勝運、国家鎮護、産業の守護神、心願成就、縁結び、安産、災難除けなど。
（中根山）	秋葉神社	火之加具土神	前記「軻具突智命」と同じ
大島町	神明社	大日孁貴命	前記参照
	秋葉神社	軻具突智命	〃
	山神社	大山祇命	〃
西岡町	神明社	大日孁貴命	〃
	秋葉社	軻具突智命	〃
	山神社	大山祇命	〃
	厳島社	市杵島姫命	市杵島比売命とも書く、宗像三神の一人。奥津島比売命、市杵島比売命、多岐津比売命の三女神を「宗像三神」という。 市杵島は、神の霊で斎き祀る島という意味があり厳島神社は市杵島から転成したものといわれている。 三人とも美人で特に市杵島比売命は美人のため弁天さまに見たてられている。 ご神徳は、陸上、航海安全の神、漁業、運輸、五穀豊穣他
	御霊神社	英　霊	前記参照
本田町	神明社	大日孁貴命	〃
	山神社	大山祇命	〃
	山神社	〃	
	稲荷社	蒼稲魂命	〃
	住吉社	不　明	
	白山社	菊理比咩命	菊理媛命・久々利姫命とも書く。白山比咩神ともいう。 伊弉諾尊が伊弉冉尊を追って黄泉国（死後に魂が行くという所（くに）に至り、この国より逃げ帰らんとして途中の泉平坂で争いがありそのとき中に立って相互の主張を聞き調和された神という。この神は全国各地の白山神社の祭神として祀られている。
堤　町	八幡社	誉田別尊	前記「応神天皇」と同じ
		軻具突智命	前記参照
	山神社	大山祇命	〃
	山神社	〃	〃
	水神社	水波能売命	罔象女神・彌都波能賣神とも書く。罔象は水の神の意味で水を主宰する神。この神は伊弉冉尊が火之迦具土神を生んで臥されたときに化生した神であるという。

			奈良県吉野郡川上村「丹生川上神社」他に奉祭されている。
	津島社	素盞嗚命	日本神話で三貴子（天照大神・月読命・素戔嗚尊）のうちの一人。高天原で暴れ回り追放されて出雲国へ降臨。八岐大蛇を十拳剣で退治したことは有名。 大蛇の尾の中より名剣「都牟羽之太刀」が出て来た。大蛇の住んでいたところはいつも叢雲が棚引いていたのはこの剣のためであったかと思いこの太刀を「天叢雲剣」と名命。その後日本武尊が東征の際この剣で草を薙ぎ払い難を免れたことから「草薙剣」の名がついた。三種の神器の一つとして熱田神宮に祀る。 農の神、疫病送り、学問、縁結び、商売繁盛、国家安泰などのご神徳あり。
	金刀比羅社	金山彦命	金山毘古神とも書く。伊弉冉尊は火之迦具土神を生み火傷をして病の床につき苦しんだ、このときに生れたのが金山毘古神と金山毘売神である。この神は鉄をつかさどる神、つまり鉱山の神、金物の神とされている。 ご神徳は、製鉄、鉱業、農機具、金物、陶磁器製造などの守護神。金銀財宝守護。金運、招福、鎮火、火防など。
	御霊神社	英　霊	前　記　参　照
（平　松）	神明社	大日孁貴命	〃
〃	山神社	大山祇命	〃
〃	津島社	素盞嗚命	〃
上丘町	神明宮	天照皇大神	前記「大日孁貴命」と同じ
	山神社	大山祇命	前　記　参　照
	秋葉社	軻具突智命	〃
	津島社	菊理比咩命	〃
	八龍社	龍　神	(1)　祭神が「竜神」の場合。竜神は、インドに生れ中国に渡って仏法を守る八大竜王、そして朝鮮を経て日本に渡来。 竜は架空の動物で空中を自在に駆け雲を巻き雨を降らせる魔力をもち雨乞い信仰に結びつき水神、竜神、海神と同一視されている。 （注）神社名が「八龍社」であるから次の(2)には当らないと思われる。 (2)　祭神が「闇淤加美神」・「闇御津羽神」の場合。闇は谷を意味し淤加美は水の神、または雨雪をつかさどる神で竜神とされている。御津羽は水の意味で両神をあわせて谷川の竜神とされている。伊弉冉尊の死後伊弉諾尊のみから生れた神。
駒場町	神明社	大日孁貴命	前　記　参　照
	山神社	大山祇命	〃
	秋葉社	軻具突智命	〃
	稲荷社	蒼稲魂命	〃
	熊野社	素盞嗚尊	〃
	厳島社	杵島姫命	前記「市杵島比売命」と同じ
	弁天社	弁　財　天	弁戈天女は、七福神の紅一点。弁戈天女はインドのインダス川を神格化したものといわれ、そのためか日本では水辺近くの洞に多く祀られている。梵天（十二天）の妻とされている。美人神として日本では宗像三神の一人市杵島比売命に結びついた。ご神徳は、音楽・弁戈・

			技芸・学問の守護神。 前記「市杵島比売命」参照
	御霊社	英　霊	前記参照
中田町	八幡社	誉田別尊	前記「応神天皇」と同じ
	秋葉社	軻具突智命	前記参照
	稲荷社	蒼稲魂命	〃
	山神社	大山祇命	〃
	大国霊神社	大国霊神（おおくにみたまのかみ）	大年神と伊怒比売神（いぬいひめのかみ）の間に生れた神。父大年神と共に大国主命の国づくり（出雲国）に大きく貢献した。 ご神徳は、五穀豊穣の守護神である。

神の住む世界　神話の中では神々の住む世界を上から順に高天原（たかまがはら）、中国（なかつくに）の二つと、黄泉（よみ）の国とに分けている。最初に現われた神の住む高天原は、光り輝く光明の世界である。中国は、高天原と黄泉の国に狭まれた地上のことで、昼あり夜あり、吉凶、善悪が交錯する人間の住む世界である。黄泉の国は地下にあり、怪奇、悪霊が住む闇黒の世界である。

高天原に住む神を天神（あまつかみ）、中国に住む神を地祇神（くにつかみ）というが、地祇といえども系図をさかのぼればなんらかの形で高天原に連らなっている。

黄泉の国の悪霊は、ときとして地上の平和を乱すが、しょせんは光の威光には抗しがたい。その間に、中国には人間が生まれて、それぞれ三つの世界に住む神々、悪霊などが交錯するなかで、なんらかのかかわりを持ちつつ、生れ、死んでゆく人間生活を継続してきた。

高天原（たかまがはら）　高天原とは、天上にある神々の住む世界である。そこは科学的にいうところの宇宙や、天空ではなく、永遠の神の存在する理念上の広大無辺の空間をさしている。

中国（なかつくに）　中国の中とは高天原と黄泉の国の間にあるという意味で、陸と海とからなっている。現在の日本をさし、古くは豊葦原中国（とよあしはらなかつくに）ともいっていた。総称して大八島ともいう。

黄泉の国（よみのくに）　地下にある国で、闇黒の世界とされ、死者の霊や悪霊が住むところである。夜見の国とも書く。すべてにおいて高天原と相反する国で人間社会に及ぼす影響も禍悪のみ凶悪の根源とされている。

同じく地下にあるという根の堅洲国（かたすくに）は、黄泉の国とは自ら別である。

（日本の神様を知る事典より）

出　典

- 神道大辞典（発行所　㈱臨川書店）　・日本の神様を知る事典（発行所　㈱日本文芸社）
- 広辞苑、第二版（発行所　㈱岩波書店）
- 「地域の神と祭神一覧表」中、神社名および祭神は「高岡町誌」より。

歴史探訪記

―忠順の足跡をたずねて―

晩秋を迎えた十一月十九日、好天に恵まれ当顕彰会恒例の「歴史探訪」第八回が実施されました。

今回は、地域の行事と重なり参加者が少ないのではと心配されましたが早々にバスの定員は一っぱいになりました。今年度は、国学者でもある忠順翁の一面に目を向け、テーマを「国学に学ぶ宣長と忠順の心」とさだめ参加者用に編集した栞を手に国学者本居宣長記念館を訪ねる「松阪城下ロマン紀行」となりました。

忠順は、名古屋に遊学中十八才で万葉集を泰鼎に、古事記を植松茂岳に学んでいます。十九才のとき帰郷し医業を継ぎこの頃から国学を志すようになり嘉永二年（一八四九）三十八才で本居内遠（宣長の二代目大平の養子・国学者）の門に入り国学をなお深く研究しました。忠順は本居派の流れを汲む日本古学派の国学者でした。

忠順の書いた「古事記標註」は明治七年に出版され高い評価を得て現在の東大の教科書に採用されました。

さて、バスは予定どおり松阪城趾の表門前に着き全員下車、お城の坂道を登り、まず最初に城内にある「歴史民俗資料館」を見学しました。

ここは主に松阪の繁栄をもたらした松阪木綿・松阪商人の資料が多く展示保存されていました。

秋風の吹く天主閣跡に立ち勢州松阪城主蒲生氏郷三万五千石の栄華を偲び城下まちを一望。かってはお伊勢参りに遠くからはるばるここ松阪につき宿をとった人もあったであろうドラマがふと脳裏をよぎるひと時でした。

さて、さらに歩を進め鈴屋（宣長の旧宅）遺跡を見学、そして本居宣長記念館に着きました。温い出迎えを受け二階へ案内され広い研修室では研究員鈴木香織さんが私たちのために資料を用意下さり一時間をこえる熱弁で本居宣長の生涯について、商人から医者へ、京都への遊学、加茂真淵との出会、古事記伝の完成など、また宣長の流れを汲む国学者の話しに至り忠順の名をあげて貴重な話しも聞くことが出来て大変勉強になりました。このあと記念館の展示を見学しお礼をのべて記念館をあとにしました。

裏門より城外に出て昔しながらに保存されている「御城番屋敷」の家の中まで見学することが出来ました。

松阪といえば「松阪牛」、是非味わってみたいが値段が高い、市内には「和田金」、「牛銀」の看板が目につく、さて私たち一行は和田金直営店の翠松閣に入りました。予約しておいたので料理は準備されていた。喰べ方の説明を聞き鍋に火を入れ賞味した、確かに美味でした。しかしこれをみやげに買ったという人はなかった。ちなみに値段は四、五人分で…万円であった。

午後は城下まちの遺跡を見学したまず桝の上った長谷川邸から松阪もめんセンター・宣長旧宅跡・松阪商人の館・隅ちがいの家並などでした。

最後は、自由行動となり思いおもいに街を散策、健脚の人は樹敬寺へ足をのばし宣長と春庭のお墓を参詣した。村上家ご当主の心づかいの供花と合掌の姿が印象的でした。

午後三時、大手通りへ集合、松阪城四五百の森を後にバスは帰路に向い楽しかった第八回「歴史探訪」の旅は無事終りました。

表紙のことば

天正十二年、近江の国日野から入封した蒲生氏郷は四五百の森に城を移し城下町の建設に着手した。軍事より経済に重きをおいたという。

これは本能寺の変の直後のことである。今は昔が偲ばれる松阪城趾の石垣である。

編集後記

会報も第八号となった。今回掲載した「神號略記」は忠順翁の編集によるもので神を知る参考書である。

私たちの身近にある神社に照らし勉強してみてはと思う、簗瀬一雄先生のご配慮に感謝しつつ。